

令和5年度「尾道版『学びの変革』推進事業」に係る
研究推進実施計画書

尾道市立栗原中学校 校長 井上 一男

1 学校経営構想 (別紙)

学校経営目標

「栗原に愛着と誇りを持つ」
～一人一人の知恵と行動を結集し、笑顔で一丸となる教職員集団～

スクールミッション

主体性と規範意識を身に付け、心を育てる小中連携教育の推進

目指す児童生徒像

- 周りから応援される生徒
- 自分自身が好きで、仲間を大切にし、人の痛みがわかる生徒
- 栗原が好きで、愛着と誇りを持てる生徒
- 夢や志を抱き、自ら学び、考え、判断し、主体的に行動できる生徒

2 教育研究構想 (別紙)

3 研究の概要

(1) 研究主題・副題

思考力・判断力・表現力等の育成
～「チーム栗原」で主体性と規範意識を育成する指導の工夫～

本校における「思考力・判断力・表現力等」とは、各教科の目標達成のために生徒が自ら既習の知識・技能を用いて課題を解決する過程で活用する能力のことである。

本校における「主体性」とは、学習者が「課題発見・解決学習」など全ての学習活動に能動的に参加し、自らが主体となって基礎的な知識・技能を活用しながら自ら思考・判断し、言語等を使った表現をする学習活動である。「規範意識」とは、そのような学習者主体の学びの場において、授業の規律やルールに則った活動をすることを通して身に付く、望ましい判断力及びそれを発揮した行動力である。これらを、授業をはじめ全ての学習活動のなかで実施し、研究を深める。

また、「チーム栗原」とは、研究の方向性を全教職員で共通理解し、それぞれの立場でどのように関わっているのか、どのような活動ができるのかを意識しながら教育活動が行える教職員集団を指す。

(2) 研究主題の設定理由

昨年度は、「思考力・判断力・表現力等の育成」を目指して各教科等で単元開発を実施するとともに、スクールミッション「主体性と規範意識を身に付け心を育てる小中連携の推進」を踏まえ、全教職員による研修や、一人一授業研究の取り組みを行った。各授業での振り返り活動の充実を徹底し、表現力向上を目指して取り組みを行った。

今年度も昨年度の研究を引き継ぎ、「チーム栗原」を合い言葉に全教職員が一丸となって研究を進めていくことを目指して設定した。どの生徒も授業に参加し、意欲的に学習するための授業規律の徹底や、主体的・対話的で深い学びを目指し、課題発見・解決学習が行えるようにしていくことを目指している。

(3) 研究のねらい

道徳科を中心とした主体的・対話的な授業づくりを通して、生徒の主体性を育み、思考力・判断力・表現力等を育成する。

(4) 研究仮説

授業規律のルールを明確にした上で、道徳科の授業改善を図り、「導入の工夫－小集団活動の活用－振り返りの充実」という授業スタイルを確立させるとともに、その授業スタイルを全教科に波及させ、全教科において物事を多面的・多角的に考えさせることができれば、生徒の思考力・判断力・表現力を向上させることができるであろう。

(5) 研究内容（研究の方向）

- ①授業規律のルールの明確化
 - ・授業三原則（着ベル・黙想・あいさつ）の徹底
 - ・ユニバーサルデザインを意識した視覚的支援の充実
- ②道徳科を中心とした授業スタイルの確立
 - ・導入の工夫による学習意欲の喚起
 - ・ペアトーク、グループトークを活用した話し合い活動の充実
 - ・「振り返りシート」による振り返りの充実
- ③思考力・判断力・表現力の育成
 - ・各単元及び各行事後の自己表現（アウトプット）の場面の設定と充実

(6) 検証の指標

- ①生徒意識調査（授業規律等の規範意識）
- ②生徒意識調査（主体的な学び、自己肯定感）
- ③AiGROWによる「表現力」のコンピテンシー数値（1・2年生対象）

(7) 到達目標

- ①生徒意識調査（学習規律等の規範意識）
肯定的回答 ⇒ 90%以上
- ②生徒意識調査（主体的な学び，自己肯定感）
肯定的回答 ⇒ 80%以上
- ③AiGROWによる「表現力」のコンピテンシー数値の変化
⇒年間を通して追跡し，数値の上昇
(※令和4年度の0.57以上を目指す)

4 指導・助言者

氏名	所属・職名等	備考
信木 伸一	尾道市立大学教授	学校評議委員

5 研究計画

月 日	研究内容	講師
4月3日(月) 栗原中	令和5年度学校経営全体構想	校長 井上 一男
4月5日(水) 栗原中	令和4年度学校経営全体計画	研究主任 中田 呂保
7月10日(月) 栗原中	全体研修 授業研究 5校時 研究協議 6校時	尾道市教育委員会指導主事 尾道市立大学信木伸一教授
夏季 栗原中	1学期まとめ・2学期に向けて 生徒アンケート分析 AiGROWの結果分析 授業公開に向けて	
9月20日(水) 栗原中	公開研究会	尾道市教育委員会指導主事 尾道市立大学信木伸一教授
11月14日(火) 栗原中	中堅教諭等資質向上研修 授業研究 5校時 研究協議 6校時 ・授業改善について	広島県東部教育事務所 指導主事
冬季 栗原中	2学期まとめ 生徒アンケート分析 AiGROWの結果分析	
時期未定 栗原中	初任者研修 研究授業 5校時 研究協議 6校時 ・授業改善について	尾道市教育委員会指導主事
10月～2月	一人一授業研究 指導案を作成し，研究授業を行う	
2月 栗原中	研究のまとめ 来年度に向けて	

別紙様式 1

令和5年度「尾道版『学びの変革』推進事業」に係る
研究推進予算計画書

尾道市立栗原中学校 校長 井上 一男

費 目		金額	明 細
節	細節		
報償費	講師報償費	① 17,250円	②尾道市立大学 信木伸一 教授（7月） 5,750円×3時間
		② 23,000円	②尾道市立大学 信木伸一 教授（9月） 5,750円×4時間
	報償費小計	40,250円	
旅 費	講師旅費	① 460円	①尾道市立大学 信木伸一 教授（7月）
		② 460円	②尾道市立大学 信木伸一 教授（9月）
	視察旅費	③ 28,000円	③先進校視察（1月） 関西方面学校視察 （新幹線利用，日帰り）14,000×2人
	旅費小計	28,920円	
合 計		69,170円	

※報償費、旅費合わせて7万円以内の予算内で計上してください。